

春は湖沼でひねもす小もの釣り

Fishing Magazine TSURIBITO

5 May 2015
No. 827

ありがとう!
70th
Anniversary
月刊つり人創刊70周年

つり人

since 1946

これぞ釣りの原点

春の 水郷!

タナゴ・フナ
と遊ぶ。

特集

第2特集

クロダイ、アオリイカ、マブナ、コイ
エキスパートが教える、
乗っ込みの秘策

実は面白い春のワカサギ、ヒメマス釣り
春ワカ&春ヒメ徹底マニュアル

栃木県鬼怒川、埼玉県細久保谷、山梨県大門川、大武川、小武川、
長野県南相木川、岐阜県輪川

2015溪流開幕速報!

奄美大島の磯釣り、エギング、クロダイルアー釣り
巨大アオリイカの巣窟はチヌゲーも熱かった!

福岡県/柳川のヤリタナゴ、カネヒラ、アブラボテ
掘割の迷宮、ベンジョコの都

タナゴねらいで気分は溪流
流れっ川のタナゴ釣り基本講座

利根川下流域、大垣市、近江八幡、柳川
ニッポンの水郷案内

フナ寿司、スズメ焼き...etc
淡水魚王国の古里の滋味

七海丸スタッフの新崎盛朗さんはディーブエギングでトラフコウイカをキャッチ。エギにはマスクシンカーを装着している



尾谷さんのサオを釣り込んだコバンヒメジ。食べればこれまた美味しい

**次々にロッドを曲げる
彩り豊かな魚たち** 十

釣り場は本部半島と橋で繋がっている瀬底島の南側。この日は数日前から急に発達した前線の影響もあり、朝から風裏に入っただけのバラエティーフィッシングがメイン。海が落ちついていれば、同じ場所でも餌木にマスクシンカーを付けたら、ナス型オモリを外付けたシステムで着底後にシャクってフールで乗せるディーブエギングが楽しめる。

とはいえ、カワハギ仕掛けなどをそのまま流用したドウツキ仕掛けの釣りもひとたび始めてみれば、本州ではまずお目に掛かれない、なおかつ本州以上の多様な魚種が次々に明快なアタリとともに穂先を絞ってくれる。「次はどんな魚が釣れるのか?」「この引きは何か?」クククンツ、と心地よい手応えの相手が海面から姿をのぞかせるまで、ワンキャストごとに期待感が膨らみ何投しても飽きない。エサはオキアミで水深20〜30mほどの浅ダナを30号ほどのオモリでねらったが、この日上がったも

のだけでも、ヒトスジモチノウオ、ミツボシクロスズメダイ、ヒメタマガシラ、マルクチヒメジ、オジサン、オグロトラギス、ヤマヒタ、キツネウオ、コバンヒメジ、リュウオウキョウヒメジ、トゲチヨウウオウオと途中からは数えきれないほどだ。尾谷さんが釣りあげたコバンヒメジはズンズンとして40cmほどあり、ライトタックルが大きく曲がって重量感も充分。有村さんも多くの魚を手にしたが、中でも船長を始め同船したみんなが驚いたのが良型のヤマヒタ。沖縄では非常に食味のよい高級魚として知られ、なおかつ「数が少なく、さらにこの海域でこのサイズは近頃まったく見ることがない」

という30cmほどを見事に釣りあげた。七海丸はレンタルタックルも充実しており、家族で手ぶらで訪れてももちろん安心して釣りができる。近海の五目釣りであれば季節を問わずに楽しめるので、ドウツキ仕掛けのほかにもサビキ仕掛け、テンピン仕掛け、さらには泳がせ釣りなどどんな釣りでも対応してくれる。やはり美味しさを人気のあるタカサゴ(ダルクン)、ヤイトハタ(ミーバイ)なども対象魚だ。

さらにフェリーで渡れる伊江島など散策や観光に訪れて魅力的な場所にも事欠かない。そのどに行っても澄みきったサンゴ礁の海が広がっていき、日常を離れて思い切りリフレッシュできる。今回の旅のようすは、ウエブサイト「ANA釣り倶楽部」にも詳しくアップされているので、ぜひご覧いただきたい。

陸っぱりエギングは秋から2月頃までがベストシーズン。これからの季節もチャンスはあるが、船からならほうほうよりおすすめになる



今シーズンに横目さんが岸から釣ったアオリイカ。沖縄では赤い体色をしたものを特にアカイチャーと呼ぶ



本部の魅力さをさらに詳しく

「ANA釣り倶楽部 (www.ana.co.jp/vacation/fishing/)」

今回の釣り旅の記録は、日本各地の魅力的な釣り場を巡る「ANA釣り倶楽部」でも公開中。おすすめのホテルや周辺の見所も詳しく紹介しています。釣り旅のプランニングにぜひご活用ください



「ホテルオリオンモトリゾート&スパ」は、沖縄美ら海水族館と備瀬集落の間に立地する本部エリアの釣り旅に最適なロケーション



海洋博公園・沖縄美ら海水族館の大水槽は、目の前に立つとまるで海の底に潜ったように魚たちの姿が見られる



防風や防砂のために育てられたフクギ並木が今も美しく残る備瀬集落。ホテルから歩いて行ける距離にあり、南国らしい散策が楽しめる



備瀬集落の外れにあるワルミは隠れ家的なパワースポット。巨大な岩の間を抜けると白砂のビーチとサンゴの海が視界いっぱい広がる



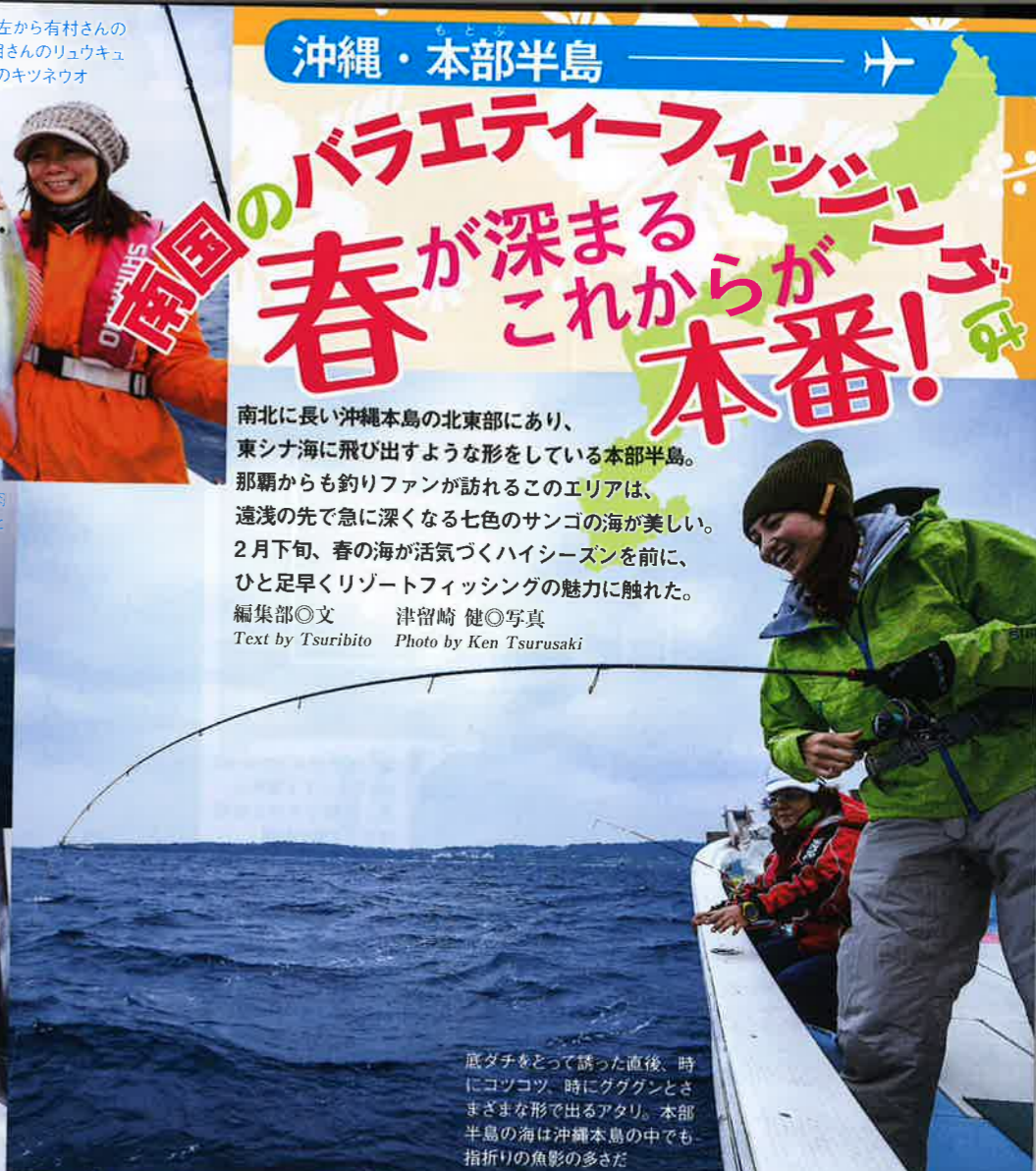
三人で連続ヒット。左から有村さんの良型のヤマヒタ、横目さんのリュウオウヒメジ、尾谷さんのキツネウオ



どことなく筋肉質なこちらはヒメタマガシラ



若手ながら地元名手からの信頼も厚い仲村船長



底タチをとって誘った直後、時にコツコツ、時にグググンとさまざまな形で出るアタリ。本部半島の海は沖縄本島の中でも指折りの魚影の多さだ

沖縄・本部半島

バラエティーフィッシングの春が深まるこれからが本番!

南北に長い沖縄本島の北東部にあり、東シナ海に飛び出すような形をしている本部半島。那覇からも釣りファンが訪れるこのエリアは、遠浅の先で急に深くなる七色のサンゴの海が美しい。2月下旬、春の海が活気づくハイシーズンを前に、ひと足早くリゾートフィッシングの魅力に触れた。

編集部◎文 津留崎 健◎写真
Text by Tsuribito Photo by Ken Tsurusaki

**釣りの目白押し
サンゴの海**

今年のゴールデンウィークは、休日が飛び石になった昨年に比べ、暦どおりだけでも5連休。直後の平日2日間も休めれば9連休も可能とあって、旅行を考えている方も多いだろう。そんな中、釣り人であれば家族とバケーションであっても、出掛けた先で楽しく釣りができればなおうれしい。その点、本部半島は非常に魅力的かつおすすめな行き先といえる。このエリアを一躍有名にしたのは「海洋博公園・沖縄美ら海水族館」だ。正面にサンゴの海と離島の伊江島を望む絶好のロケーションにあり、魚類最大のジンベエザメが3尾も泳ぐ大水槽などがあって展示が大変に充実。国内はもちろん、海外からも多くの観光客が訪れていて、沖縄の海の多様な生態系に触れることができる。

そんな本部半島だが、これからの季節は釣りもとても充実している。まずは何となくアオリイカ。陸っぱりでも船からのディーブエギングでも良型がねらえ、特にオモリを付けて最深で120mほどの深場までをねらうディーブエギングでは、5月に向けて2kgクラスの大サイズがアブレイジとなる。時には5kgに迫るモンスターも出るというから驚きだ。さらに半夜釣りでは、平均で140〜160cm、時には180cmオーバーも出るというオキナワオオタチがねらえる。4月ともなれば近海でのGT(ロウニンアジ)もトップシーズンだ。



てくれたのは、沖縄の遊漁船船長の中でも人柄も技術もピカイチと地元釣りファンが太鼓判を押す「七海丸・キャプテンズオキナワ」の仲村茂樹船長。まだ30代の若さだが、お祖父さんは沖縄でも有名な素潜りの漁師だったそうで、自身も周辺の海域には抜群に詳しい。そして、七海丸での釣りを満喫したの、女性ファッショニステア エンジン Cas の CMで活躍し、実は休日のリフレッシュの1つが船釣りというモデルの有村実樹さん。沖縄釣女会の横目則子さん、横目さんの友人で沖縄の自然に魅せられて1ターンしてしまっただけという尾谷まゆみさんとともに、真つ青な海へ繰り出した。

那覇空港から本部半島まではレンタカーを利用。沖縄自動車道を利用して那覇市内から本部町まで2時間ほど。羽田から那覇空港まではANAの定期便で約2時間50分



口が小さく釣るのが難しいトゲチヨウウオは南国らしいこの色鮮やかさ!